

潜在危険性

火災・爆発

- ・可燃性物質：燃えるが、容易に発火しない。
- ・水と（あるものは激しく）反応し、引火性、毒性、又は腐食性の気体を放出し、漏洩する。
- ・加熱により蒸気が空気と爆発性混合気をつくるおそれがある：屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。
- ・ほとんどの蒸気は空気より重く、地面に沿って拡がり、低い所や密閉部分（下水道、地階、タンク）にたまる。
- ・蒸気が発火源まで達し、フラッシュバックするおそれがある。
- ・金属と接触すると、引火性の水素ガスを発生するおそれがある。
- ・加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。

健康

- ・毒性：蒸気、粉塵又は物質の吸入、経口摂取、接触（皮膚、眼）により、重傷、炎症を生じ場合によっては死に至るおそれがある。
- ・水や湿った空気との反応により、毒性、腐食性、又は可燃性のガスを発生する。
- ・水との反応により、大量の熱を発生し、空気中のヒュームの濃度を増すおそれがある。
- ・火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生する。
- ・消火水や希釈水は腐食性及び／又は毒性があり汚染を引き起こすおそれがある。

公共の安全

- ・まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。
- ・直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・関係者以外は近づけない。
- ・風上に留まる。
- ・低地から離れる。
- ・密閉された場所を換気する。

保護具

- ・空気呼吸器（SCBA）を着用する。
- ・製造者により特に推奨された化学用保護衣を着用する（耐熱性がないおそれがある）。
- ・防火服は限られた防護をするに過ぎない。漏洩時に効果はない。

避難

漏洩時

- ・風下に適切な避難距離をとる。

火災時

- ・タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

注意：ほとんどの泡消火剤はこれらの物質と反応して腐食性／毒性のガスを発生する。

小火災 ・ 二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤を用いる。

大火災 ・ 散水と水噴霧あるいは耐アルコール性泡消火剤を用いる。

- ・クロロシラン火災は水を使用してはいけない；AFFF-耐アルコール性中発泡消火剤を使用する。
- ・危険でなければ、容器を火災区域から移動する。
- ・水散水又は水噴霧を用いる。棒状放水で消火しない。
- ・タンク火災あるいは車／トレーラーの積荷火災
 - ・消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
 - ・容器内に水を入れてはいけない。
 - ・消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 - ・安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
 - ・火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。

漏洩時

- ・すべての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）。
- ・漏洩物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地する。
- ・適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- ・危険でなければ漏れを止める。蒸気抑制泡剤は蒸気を減らすために用いる。
- ・クロロシランはAFFF-耐アルコール性中発泡消火剤を使い蒸気発生を抑える。
- ・漏洩物と水とを接触させてはいけない。また、容器内に水を入れてはいけない。
- ・蒸発を抑え、蒸気の拡散を防ぐために散水する。
- ・排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

少量のもれ

- ・乾燥した土、乾燥砂あるいは不燃材料で覆い、さらにプラスチックシートで飛散を防止し、雨にぬれないようにする。
- ・漏洩物は清浄な帯電防止器具を用いて集め、プラスチック容器に入れてゆるく覆いをし、後で廃棄する。

応急手当

- ・被災者を新鮮な空気のある場所に移す。救急車を呼ぶ。
- ・呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- ・被災者が（有害）物質を飲み込んだり、吸入したときは口対口法を用いてはいけない；逆流防止のバルブがついたポケットマスクや他の適当な医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。
- ・呼吸困難の時は酸素吸入を行う。汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- ・漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15〔20〕分間洗浄する。
- ・皮膚への接触を最小限とするため、付着物を拡散させないようにする。
- ・物質への暴露（吸入、吸飲、皮膚接触）の影響は遅効性のおそれがある。
- ・被災者を温め、安静にする。医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。